



涅槃云。從今日後不聽弟子食肉。觀察如子肉想。夫食肉者斷大慈種。水陸空行有命者怨。故不令食。……  
稜伽云有無量因緣不令食肉。略說十種。一者一切衆生無始以來常為六親。以親想。故不令食肉。二狐狗人馬屠者雜食。三不淨氣分所生。四衆生聞氣悉生怖。五令修行者慈心不生。六凡愚所習臭穢不淨無善名稱。七令呪術不成。八以食肉見形起識。九染味著。十諸天所棄多惡夢。虎狼聞香。十由食種種肉。遂噉人肉。故。

中国律宗における四分律の大乗的理解(川口)

仏言。聽食種種肉……(大正二二・八六六下)善男子。從今日始不聽聲聞弟子食肉。若受檀越信施之時。應觀是食如子肉想。迦葉菩薩復白。世尊云何。如來不聽食肉。善男子。夫食肉者斷大慈種。(大正十二・三八六上)  
仏告大慧。有無量因緣不令食肉。……謂一切衆生從本已來。展轉因緣常為六親。以親想。故不令食肉。驢騾略駝狐狗牛馬人獸等肉。屠者雜食。不令食肉。不淨氣分所生。故不令食肉。衆生聞氣悉生恐怖。如旃陀羅及譚婆等。狗見憎惡驚怖吠吠。故不令食肉。又令修行者慈心不生。故不令食肉。凡愚所習臭穢不淨無善名稱。故不令食肉。令諸呪術不成。故不令食肉。以殺生者見形起識深味著。故不令食肉。彼食肉者諸天所棄。故不令食肉。令口氣臭。故不令食肉。多惡夢。故不令食肉。……(大正十六・五一三下)為此丘

僧祇云。若為比丘殺者。一切七衆不令食。乃至為優婆夷殺。七衆不令食。亦爾。  
殺者一切比丘比丘尼式叉摩尼沙弥沙弥尼優婆塞優婆夷。不得食。如是乃至為優婆夷殺。一切比丘不得食。(大正二二・四八六上)

今学戒者多不食之。与中国大乘僧同例。有学大乘語者。用酒肉為行解。則大小二教不取。自入屠兒行内。天魔外道尚不食酒肉。此乃闍羅之將吏耳。(大正四〇・一一八上)  
とあつて、最初四分律で許される五種の正食をあげているが、この中には魚や肉なども入つており、また他の律にも魚肉を食べても良いことをいっているのである。そして次に涅槃經を引き慈悲の面から肉食を禁じ、さらに四卷楞伽の断食肉品を引き、肉を食べてはいけない十種の過をあげている。そして僧祇律を引き、比丘や優婆夷のために殺したものは食べてならないことをいっているのである。これらの理由によつて道宣は最後に「今の学戒者多く之を食せず」と当時の僧が魚肉を食べなかつたことをあげており同所の『資持記』によれば中国の大乗僧は梵網經や涅槃經、楞伽經によつて慈悲を最大にするためといっているのである。

以上のように四分律の肉食許可を方便の權教とし、涅槃經、楞伽經を引用して絶対に禁止する大乘の意味に転換していることが明らかになる。では凝然のいう法華經はどうかといへば、平川彰博士の「道宣の法華經觀」(法華經の中国的展開)所収)でもいうように特に他の經典より取り立てて重要視したとはいえない。このように中国律宗が大乗教といわれる理由には、四分律を律宗所依經典の涅槃經や楞伽經によつて大乘の意味唯に転化させていることが指摘できもいえるのである。